

【東大見学会 企業・大学訪問 感想】

①初めに

私は、自分のことについて考えることが苦手です。そのため、自分がどのような仕事に就きたいのかについて、明確な考えをまだ持っていません。興味を持っている学部は私の中にも確かに存在します。しかし、自分がやってみたい仕事と興味を持っていることに関するの仕事は全く違うように思っていました。自分の知識が足りないのだ、そう思いました。そこで私は、少しでも自分の将来像が立てることができるようになるように今回東京研修に参加しました。

②ディレクトフォース

私が今回、東京研修で一番心に残ったのがこのディレクトフォースのグループセッションです。この企画では、各グループでディレクトフォース・笹川平和財団の講師の方1人ずつからお話を聞きました。1人1人が事前に考えてきた質問にも丁寧に答えて頂き、私にとっても貴重なものとなりました。

・初めに東レの国内外営業、海外の事業運営などをなさっていた水口 泰介様に話を聞きました。営業の仕事から国連 WFP のエクスペアリンツボランティアになられた方でした。国連 WFP のボランティアは、人のためになることをしたいという思いから始めたそうです。私が驚いたことは、初めからこのボランティアになることを決めていたわけではないということです。それなのにも関わらず、自分に合ったボランティアだったと言い切れる水口 泰介様はとても輝いて見えました。私も将来、自分の仕事を胸を張ってこなせるようになりたいと思いました。

また、水口 泰介様は会社で副社長の経験、海外勤務の経験がある方でした。副社長の頃は、事業拡大を意識することを大事にしていたそうです。海外には長期間3カ国に駐在なさっていたようです。海外と日本では考え方に違いがあり、海外ではいかに自分の考えを表現するかが大事だとおっしゃっていました。

また、私たちは世界の食料問題を改善していくために、ものを買すぎないことや食料問題についてのプログラムに積極的に参加すると良いことが分かりました。

・2クール目に、キューピー株式会社で商品開発などをなさっていた守屋 雅夫様に話を聞きました。私にとって商品開発は大変興味深いものだったため、とても参考になりました。商品開発は、売れるまでが勝負です。その達成までの道のりは決して短いものではありません。守屋 雅夫様も、商品を開発する上ではやはり失敗する方が圧倒的に多く、成功する

までの2年間は地獄を見ているようだったとおっしゃっていました。結果が全く出ないからといって諦めてしまうのではなく、いつか何かが起こると信じて常に全力投球することが大事だということを学びました。

・最後に、海洋政策研究所 海洋環境部で研究員として働いている藤井 麻衣様に話を聞きました。環境省や外務省など色々な省庁で働いた経験もあり、省庁で働く上では文系と理系の知識のどちらもが必要とされる、ということを知りました。私は今まで省庁で働く人は文系の人が多かったと思っていました。このことにはとても驚きました。藤井 麻衣様は、カナダで半年間のインターシップの経験もあったそうです。インターシップは、特定の職の経験を積むために、企業や組織において労働に従事している期間のことを言います。専門性に合わせて仕事を貰えるため、自分にとって良い経験をすることが出来るそうです。改めて、自分の専門を持つことはとても大事であることを学びました。

### ③企業訪問 ～経済産業省～

私たちの班は、企業訪問として経済産業省へ行きました。

私たちは始め、職員の方から経済産業省はどんな仕事をしているのかなどの説明を受けました。経済産業省は全体(全国)で7000人程の職員がいるそうです。また、省庁は文系の人が多いように思えますが、経済産業省は理系の人も多いようです。これには私も驚きました。それまで私は自分は理系だから、省庁で働くことは出来ないと思っていたため自分の夢が広がったようでとても嬉しかったです。

職場の雰囲気を聞いたところ、経済産業省は他の省庁から『動物園』と呼ばれていたそうです。私は、省庁で働く人はパソコンと睨み合っている文章を書いているといった勝手なイメージを持っていたため、それを聞いたときは耳を疑うほど驚きました。『動物園』と呼ばれていた理由は、経済産業省に省庁で働く人の中で比較的賑やかな人が多かったからだそうです。現在も経済産業省は課と課の意見交換などが積極的に行われるため、風通しが良いそうです。

経済産業省でしていることは大きく4つに分けられます。インターネットを使って電子機器を繋げるIoTなどを扱っている『経済産業』、福島原発からの復興や日本の資源確保などを扱っている『エネルギー』、日本の会社の99.7%を占める中小企業にIT技術を教えたりする『中小企業』、TPPなど海外の国と積極的に関わる『貿易』です。特に中小企業の部署は直接それぞれの企業へ行って企業の人たちの話を聞くこともあるため、自分の目に見えるかたちで企業へ支援できるといったやりがいを感じるそうです。

経済産業省で掲げている目標は、「国富を増やして国民生活を豊かに」です。国の豊かさを表す例として、日本のGDPについての説明を受けました。日本の現在のGDPは、アメ

リカ、中国に次いで3位です。この数字だけ見ると、日本は世界の中でもトップクラスの豊かな国であるように思えます。私もそう思いました。しかし、日本における1人あたりのGDPは世界26位だと聞いたとき、こんなにも違っているということにとっても驚きました。世界にはおよそ190カ国もの国があります。そう考えたら世界26位なんて豊かな国なのではないか、とも思いました。しかし、それよりもGDPが国全体で3位だったのに1人あたりになると26位にまで下がってしまうことが衝撃的でした。また、日本における個人の相対貧困率は16.3%だという話も聞きました。これは6家庭に1家庭が、普通の家庭の半分の収入しか得ていないということです。日本は側面上豊かであるように思えても、内面を見てみれば豊かでない部分もたくさんあることがよく分かりました。

今回私たちは、解散場所から経済産業省まで距離が近かったこともあり、約束時間よりも30分程前に現地に着いてしまいました。そんな私たちに暑いからと言って建物の中へ入れて下さった警備員の方、約束時間よりも早く私たちにお話を聞かせて下さった経済産業省の職員の方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

#### ④終わりに

この2日間で様々な職業の方、様々な学部で勉強している方の話を聞きました。その中で私が気づいたことは、失敗を恐れず常に前進することが大切だということです。私が話を聞いた方は、全員常に先を追い求めていました。限界を決めるのではなく、目標を達成出来たらまた次の目標へと向かっていました。私にはそれがとてもかっこよく思えました。私も常に前進していくことを忘れずにこれからの人生を歩んでいきたいです。